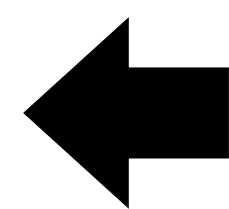
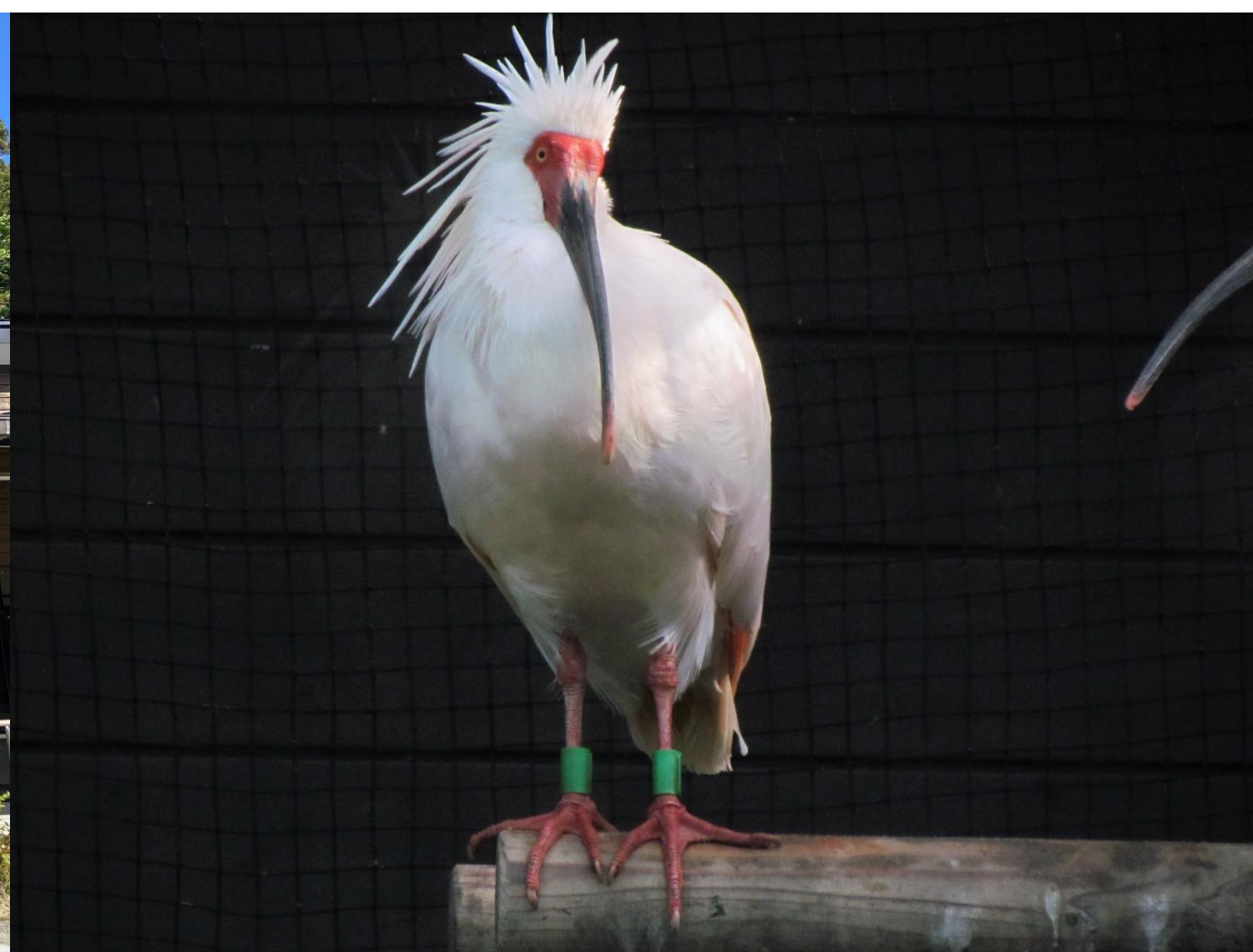


トキの^{れきし}歴史や長岡市のこれまでの取組を
この一冊^{さつ}で^{しょうかい}紹介！



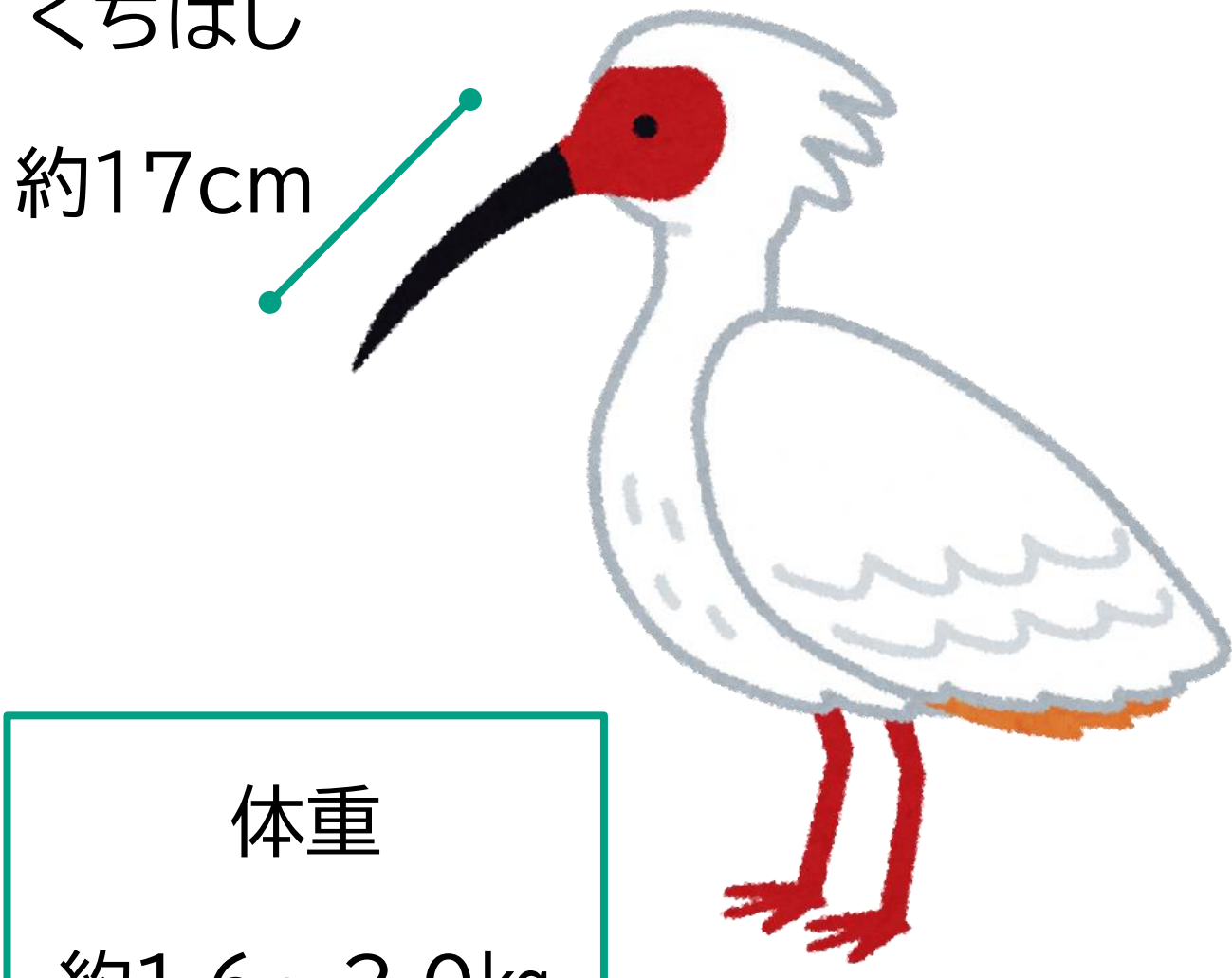
ここからPDFデータもダウンロードできます



トキのからだ と トキの生態

トキのサイズあれこれ

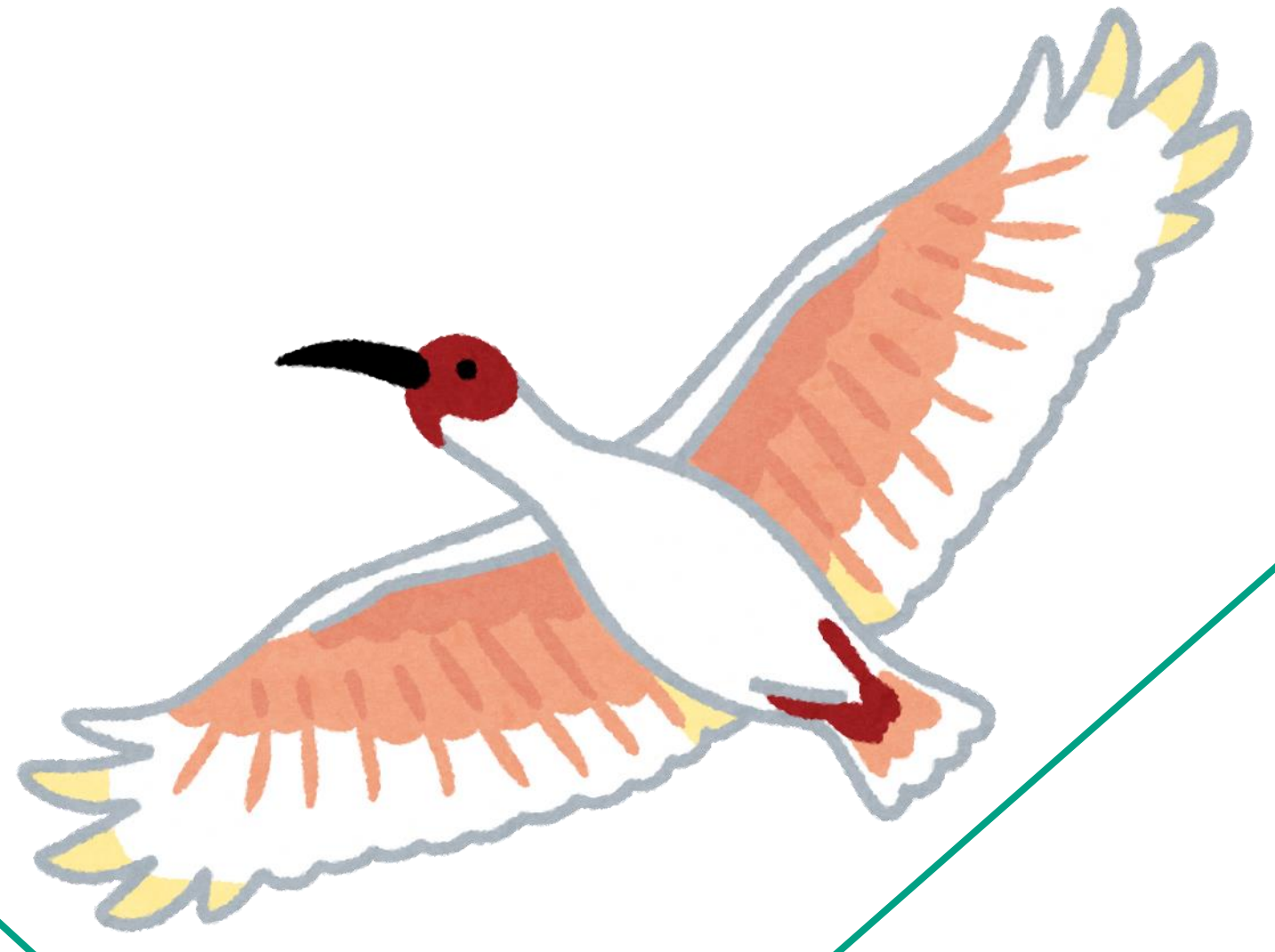
くちばし
約17cm



体重
約1.6～2.0kg

高さ(地面～頭)
約45cm

全長
(体をまっすぐのばした時の
くちばし～尾羽)
約75cm



よくかいちょう つばさ
翼開長(翼を広げた時の最大)

約140cm

使用素材：いらすとや <https://www.irasutoya.com/>

トキの見た目あれこれ

赤い顔

赤いのは、羽毛が生えていない皮ふの部分
土や泥の中にくちばしを差しこむので、顔が
汚れにくいように羽がないとも言われている

冠羽

頭のうしろにある羽のたば
驚いたり、興奮したりすると立ち
あがる



くちばし

長くわん曲した
形は、土の中に

つきさして、エサを探す時に使う。先
の赤いところがセンサーの役目をして
見えないエサも見つけることができる



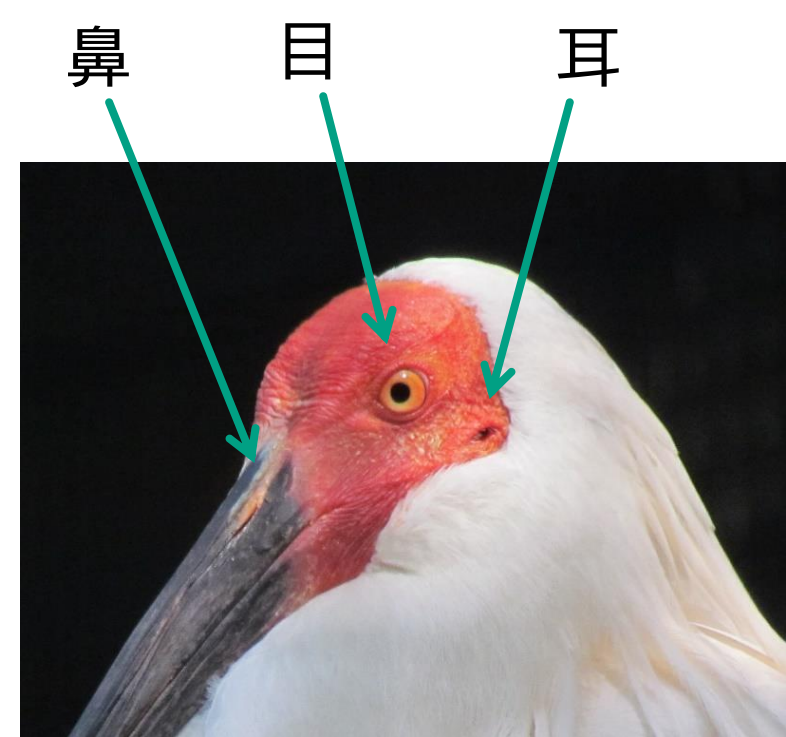
水かき

泥の上を歩きやすくするため
に小さな水かきがある。泳い
だり浮いたりとはできない



顔まわり

- 目** オレンジ色のふちに
黒いひとみをもつ
- 耳** 目の下にあり、
耳たぶのような出っぱりはない
- 鼻** くちばしにそって開いている穴の部分が鼻
左右に1つずつ開いている



トキ色の羽

「トキ色」とよばれる
美しい色をしている。



エサに由来するカロテノイド色素により発色



01

子どものトキってどんな見た目？

たまご
卵から生まれたばかりのヒナは、黄色の顔に黒い目、くちばしは短く、はいろ灰色の羽をしています。(写真:トキのヒナ)



ようちよう
幼鳥(うまれておよそ40日後)のころには、顔はオレンジ色。くちばしや羽の形は大人せいちょうのトキ(成鳥)と変わらなくなってきました。



(写真左:成鳥、右:幼鳥)

03

トキってどのくらいの速さで飛ぶの？

じそく
時速40～50キロの速さで飛びます。

泳いだり浮いたりできないので、ほんしゅう佐渡と本州の間を渡るトキは休むことなく海上を飛び続けます。



使用素材:白地図専門店 <https://www.freemap.jp/>

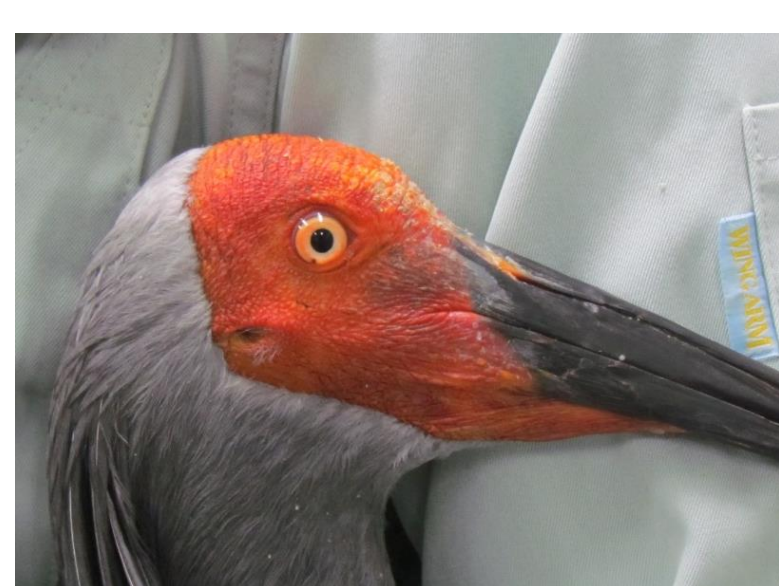
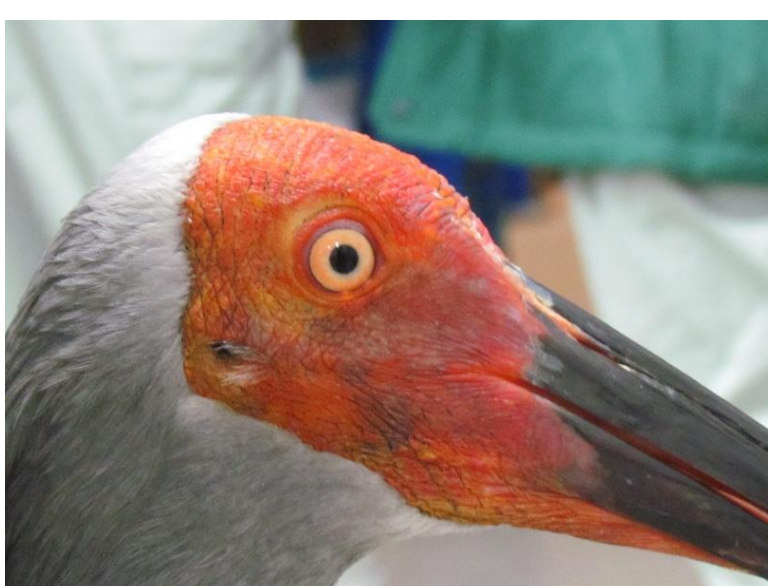
02

オスとメスの見分け方は？

外見でははっきりとわからないため、けつえき けんさ血液検査をして調べます。

長年トキを見てきたさど佐渡の獣医師は、横から見た時、おでこが角ばっているのがオス、丸いのがメスと見分けられるそうです！

さて、下の写真のどちらがオスで、どちらがメスか分かりますか？



正解：左がメス、右がオス

04

トキは何年くらい生きるの？

まだはっきりとは分かっていません。

記録があるなかで、日本で最高齢さいこうれいのトキは、日本最後の野生個体の「キン」です。

保護されたのち、飼育下でしいくか36歳まで生きました。



キン

長岡市トキ分散飼育センターで飼育しているトキの中で、最高齢は20歳です！(令和6年1月1日現在)

トキのあゆみ

野生

江戸時代

日本各地に生息

明治時代

狩猟が解禁され、たくさん捕まえられる

(美しい羽根をとるため)



大正時代

姿が見られなくなり、絶滅したと言われる

昭和時代

6年(1931年) 佐渡で生息が確認される

9年(1934年) 天然記念物に指定

27年(1952年) 特別天然記念物に指定



友友・洋洋



優優



トキ放鳥記念式典(平成20年9月25日/佐渡市)

平成20年(2008年)

佐渡で野生に帰す放鳥が始まる 以降毎年実施

平成24年(2012年)

野生下で36年ぶりに

ヒナ誕生



提供: 環境省

平成28年(2016年)

野生下誕生同士のつがいからヒナ誕生

平成31年(2019年)

環境省レッドリスト2019で『野生絶滅』から

1ランク低い『絶滅危惧 I A類』に見直される

保護・繁殖

昭和56年(1981年)

佐渡に残っていた野生5羽を保護のため捕まえる

日本産トキの野生絶滅



提供: 佐渡市

平成7年(1995年)

オスの「ミドリ」死亡

国内飼育はメスの「キン」のみとなる

平成11年(1999年)

1月 中国から「友友・洋洋」ペアが日本へ贈られる

5月 日本初の人工繁殖に成功し「優優」が誕生

以降、繁殖が軌道に乗る

平成15年(2003年)

「キン」が36歳で死亡



提供: 佐渡トキ保護センター

キン

平成23年(2011年)

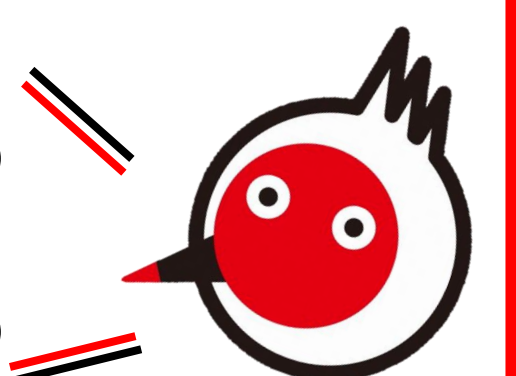
長岡市で分散飼育事業開始



国内にいるトキの数

野生 推定 532羽 (令和5年12月31日現在)

飼育 161羽 (令和5年12月31日現在)



長岡市の取組

飼育のきっかけと長岡市の役割

中越大震災で被災した際に全国から寄せられた支援や励ましに応えようと、トキを復興・再生のシンボルととらえ、平成23年に長岡市トキ分散飼育センターを開設しました。

鳥インフルエンザ等の感染症によりトキが絶滅しないよう、佐渡におけるトキの飼育・繁殖・野生復帰を支援しています。

また、平成24年に「トキと自然の学習館」を開館し、平成30年には、トキみ〜て(観覧棟)でトキの一般公開を始めました。

トキの生態や長岡の自然などを紹介し、人とトキが共生する地域の大切さを伝えています。

長岡市トキ分散飼育センターでのトキの繁殖

自然繁殖

巣の中で自然に卵がふ化し、巣立ちを迎えること

● 産卵・ふ化・子育て

4月ころになると一日おきに3〜5個産卵し、親鳥が交代しながら温めて、約28日でふ化します。その後、親鳥からエサをもらいながら成長し、約40日後には自力で巣の外に出られるようになります(巣立ち)

野外放鳥後の生存率・繁殖率の向上に向けて自然繁殖に重点をおいています

人工繁殖

親鳥が卵やヒナをうまく育てられない場合などに人が手助けをして繁殖を行うこと

● ふ化・子育てのサポート

ふ卵器や育すう器などを使い、親鳥が子育てをする環境を再現し、子育てをサポートしています



育すう器



ふ卵器

親鳥、卵、ヒナ、それぞれの様子を見て、条件を整えば、自然繁殖にもどします

長岡市生まれのトキたち

これまでに、61羽のトキが長岡市トキ分散飼育センターで生まれ、56羽を佐渡トキ保護センターへ移送しています。

そのうち46羽が野外放鳥されました。

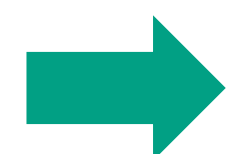
移送



トキ移送時に使う箱



移送のためトキを箱の中へ



移送のようす



佐渡トキ保護センターへ出発

産卵数		繁殖						
		ゆうせい 有精 らんすう 卵数	ふ化数			巣立ち数		
			自然 ふ化	人工 ふ化	計	自然 育すう	人工 育すう	計
151	91	20	41	61	41	16	57	



佐渡トキ保護 センターへの移送数		
オス	メス	計
34	22	56



佐渡での 野外放鳥数		
オス	メス	計
29	17	46

トキの飼育員 一日のお仕事

トキのお世話をしている飼育員はどんなお仕事をしていますでしょうか？飼育員の一日を紹介します！

9:00 朝のエサやり



朝のエサは「馬肉飼料」です。(馬の肉と粉末飼料、にんじん、鶏のゆで卵などを細かくして混ぜたもの)

エサやりはトキの体調を知る一番の手がかりです。季節やトキの健康状態により量を調節し、毎回食べた量を記録しています。怖がりなトキを驚かさないように注意しながらケージ内の点検と清掃もします。

9:30 モニター観察



センターの事務所にあるモニターで、各ケージのトキを観察します。

エサはしっかり食べたか、飛んだり歩いたりする様子に変わりはないか、同じケージのトキとケンカしていないかなど、何か変化があればすぐに対応できるようにしています。

10:00 ドジョウの管理

2～3週間おきに購入するドジョウを、センターの水槽で管理しています。水の入れ換えなどをして、ドジョウが死なないように注意しています。

13:00 昼のエサやり

昼のエサは「ドジョウ」です。
ケージ内の池の掃除をした後に、生きたドジョウを放します。



14:30 モニター観察

15:00 夕方のエサやり

一日の最後のエサは「ペレット」です。(トキ用に作られたペットフードのようなもの)
一日3回のエサは、トキの健康を考えてバランスよく栄養がとれるように種類を変えています。

16:30 日誌をまとめる

飼育員は数人で交代しながらお世話をしています。
次の当番にしっかり引き継ぐために一日の作業を記録します。



「馬肉飼料」は飼育員の手作り！約3週間分をまとめて作って冷凍しておき、必要な分を解凍して与えています。トキが食べる大事なエサなので、食中毒を起こさないように、しっかり手洗いなどをして衛生面に注意しています。

他にもこんな仕事をしています

● 巣台づくり(2月)



クズという植物のツルを使って編んだ巣台を止まり木に設置します。
ケージの中に小枝や草・コケなど巣の材料となるものを入れておくと、トキがこれらを巣台の中に運び入れ、卵を産む「産座」をつくりま

● 繁殖期の見守り(3～6月)



産卵やふが無事に行われるように、特にモニター観察に神経を使います。
アクシデントがあればいつでも飼育員が親代わりになれるよう、育すう室の準備を行い、ヒナの誕生後は状態観察やエサの準備で大忙しです。

● 健康診断(10月頃)

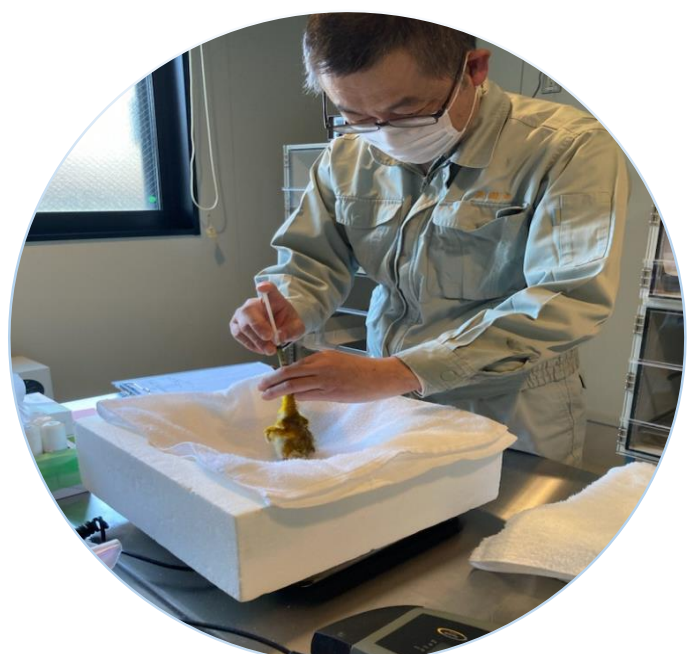


毎年秋には、その年に産まれた幼鳥を佐渡トキ保護センターへ送ります。
送る前に、体重測定、クチバシや脚の長さの計測、羽や顔、口の中の状態を観察し、鳥インフルエンザの検査をします。性別判定のために採血も行います。

● ケージのお掃除(11月頃)



囲いネットや池の掃除、樹木の剪定、地面の雑草取り、汚れた土の入れ替えなど、トキみ～での休館日を利用して飼育員総出で行います。
動物性のエサを食べるトキのフンは粘り気が強いので、止まり木の汚れは高圧洗浄機を使って落とします。



▲親鳥に代わってエサやり

飼育員はどんな想いでトキのお世話をしているのでしょうか

開設当初はまだ国内のトキの羽数が少なかったため、親鳥にヒナを育てさせるだけでなく、人の管理のもと、できるだけ多く繁殖させるように取り組みました。しかし、親鳥自身にヒナを育てさせたほうが放鳥してからの生存率が高く、つがいとなった時のふ化率や巣立ち率も高いということから、現在は、できるだけ親鳥のもとでふ化させ、育てさせる「自然繁殖」という方法を採用しています。ところが、この自然繁殖が一筋縄ではいかないのです。繁殖期になるとオスとメスの行動にズレが出て、つがい相手に攻撃的になったり、産卵した卵をふ化前につついてみたり、ヒナにエサを与えなかったりとトラブルが毎年発生し、卵やヒナを保護する対応に追われます。無事に成育して佐渡トキ保護センターに送った後、放鳥されると胸を撫で下ろします。長岡で生まれ育ったトキが野生下でたくましく生きていくことを願っています。

トキと長岡市

発行・印刷 : 令和6年4月1日

発行元 : 環境政策課 長岡市トキと自然の学習館
〒940-2522 新潟県長岡市寺泊夏戸2829
TEL 0258-75-3201
Email kankyo-toki@city.nagaoka.lg.jp

*この冊子は、令和5年5月から令和6年3月まで開催していた「トキみ～て開館5周年記念 特別パネル展」にて
展示していた内容を、令和6年3月時点の情報をもとに修正し発行しています。